

令和2年7月15日

地区委員長 各位
地区コミッショナー 各位
地区事務長 各位

一般社団法人日本ボーイスカウト愛知連盟
常務理事・県連盟コミッショナー
長谷川 榮一

新型コロナウイルス感染拡大予防について（お願い）その2

日本連盟より7月4日付けで、いわゆる「第10報」の通知があり、つづいて10日には、「スカウト活動における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン バージョン2」が提示されました。そこには、制限付きながら部活動や合宿の再開という学校の対応を鑑み、地域での判断によって、泊を伴う活動の自粛要請が解除されました。

以上を受けて、当県連盟では以下の注意事項を「再確認事項」として提言し、できる限りの充実した活動の展開をお願いするものです。

記

- 1 「第10報」「ガイドライン2」を順守する。
 - ・プログラムを作る前に読む、作った後に読み直す。多人数で読み合わせる。くどいくらいに読んで、内容について共通認識を図ってください。
 - ・この中で紹介されている各種参考資料についても、上記2つの文章の内容として、確認と順守をお願いいたします。
 - ・「新城・吉川野営場における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」も参考にしてください。
- 2 コミュニケーションをいつも以上に。
 - ・スカウト、保護者、リーダー間は当然のこと、地域とのコミュニケーションもいつも以上に積極的に、深くしてください。スカウトが過ごしている地域のコロナへの対応など、情報を集めるように心がけてください。

- ・個人の最近の生活を把握することはとても大切なことです。
例：通勤通学の手段は？ 最近旅行した？ 出張の多い仕事？
- ・出かけるプログラム（泊を伴わない場合を含む）の場合、出かける先の地域が我々を歓迎してくれるかどうかは重要なチェックポイントです。
- ・保護者のニーズは社会のニーズです。「もっと積極的にやってくれ」、「コロナ禍なのにやるのか」といったご意見を大切にし、どのくらいの活動が適切か、を判断してください。
- ・保護者へのプログラム内容の説明をしてください。野舎営の際は保護者説明会を開催することは普通に行われていますが、ちょっとしたプログラムであっても、メールなどを利用し、保護者へ事前にお知らせをすることは大切なことです。また、終了後にも「無事終わりました」などの報告も大切だと考えています。

3 保険を再確認しよう。

そなえよつねに共済では活動中の傷害には対応しておりますが、感染症には対応していません。また、「活動に参加したら、うつされた、責任取れ。」といった種類の賠償責任は対応していません。

4 プログラムプロセスをキチンとやろう。

早くキャンプがやりたくて、会議を省略するなどは、もつてのほかです。こんな時だからこそきちんと諸会議を行い、プログラムの作りこみを丁寧にする。出すべき届け出はすべて出す。出かけプログラムの場合は下見を入念に。出かけ先のコロナの対応状況、我々への歓迎ムードなども可能な限り調べておく。

5 責任者は誰？

- ・隊、団の活動に許可を出すのは団委員会です。ということはプログラムの最終責任者は団委員長です。もちろん各隊の活動の運営責任者は隊長です。
- ・他団との合同活動の場合、全体の責任者、それぞれの課題（細かいプログラム）の責任者などあらかじめ決めておきましょう。
- ・責任者だけに押し付けるのではなく、みんなで作り上げて充実したプログラムにしましょう。

6 絶対に無理はしない、させない。

- ・コロナの影響で例年に比べ夏休みが短くなるが決まっています。その短い期間にも部活の試合、模擬試験、家族旅行（お盆の帰省）が当然に入ってくるのが予想されます。無理な日程調整をさせないようにしましょう。
- ・第2波がすぐそこまで迫っている、という危機感を常に持ち、状況が悪化した時点で、前日であっても、当日集合した後でも、プログラムをスタートした後であっても「中止」する勇気を持ってください。

7 何よりも健康に留意しよう。

- ・コロナ対策をとって生活することは、ほかの病気への予防策にもつながります。手洗いがい、マスクの着用、バランスの良い食事、早寝早起き、適度な運動を心がけましょう。
- ・暑さ対策の中に、「マスクをはずす」があります。厚生労働省も風通しの良い場所、戸外で、ソーシャルディスタンスを確保できる場合は、積極的にマスクをはずす旨の情報を展開しております。マスクをする場合も、運動を伴う場合は最低30分に一度はマスクをはずし顔色をチェックする必要があるそうです。プログラム展開中にも気を配るべきポイントです。

今後しばらくの特別対応（地区コミッショナー各位へお願い）

- ・団、隊での泊を伴う活動について、現在は野舎営届の提出に地区コミッショナーの承認は必要ありません。しかしながらこうした状況下で、コミッショナーが知らなかった、というわけにはいきません。従来から県連盟への提出と同時に地区コミッショナーへも提出しておくことになっていますが、しばらくの間コミッショナーが確認した、指導すべき点がある場合は指導した、という意味合いを含め地区コミッショナーの欄へのご記入をお願いいたします。その後県連盟へご提出ください。

以 上

「我々への歓迎ムード」という表現について

コロナ感染者が少ない地域では、感染者が多い地域からの人々の流入を極端に嫌がる場合があります。そうしたことへの対応も必要だと考えています。そこでこのような表現を使用しました。